

総務委員会資料

平成24年11月21日

議案第227号

川崎市立図書館設置条例の一部を改正する条例の制定について

教育委員会

新中原図書館の整備

1 新中原図書館の位置図



2 開館までのスケジュール

平成25年1月上旬 移転作業開始(現中原図書館臨時窓口開設)

2月28日 建物引渡し

3月下旬 開館式典・内覧会 (3月27日予定)

4月上旬 一般供用開始 (再開発組合等と調整中)

4月以降 記念イベント等の開催

3 新中原図書館の施設概要



建物全体イメージ

- 1 構造・規模**
鉄骨鉄筋コンクリート造地下2階地上39階建の内
地下1階の一部、地上1・3～4階の一部、5～6階部分
延べ面積 4,496.92㎡
- 2 事業費**
床取得費 3,310,425千円 内装工事費 1,014,300千円
諸経費 191,124千円
- 3 主な比較(現行→新中原図書館計画)**
床面積 2,419㎡ → 4,497㎡ (1.86倍)
蔵書数 約33万点 → 約45万点 (1.36倍)
雑誌 約200タイトル → 約400タイトル(2倍)
閲覧席 143席 → 201席 (1.41倍)

4 新中原図書館”6つ”のコンセプトと施設整備

① 好アクセスのビジネスマンのオアシス

- 通勤・通学帰りの知的リフレッシュサービス
 - ビジネスマン・ビジネス支援の充実
- ビジネス支援コーナー、閲覧席の拡充 等

④ ハイブリット図書館

- インターネット時代の時間と空間の制約を超えた全市・24時間サービスの展開
 - 図書資料のほか電子データベースやインターネット等による高度な情報提供
- インターネットコーナー、電子データベースの利用 等
(法令、新聞記事検索等)

② 市民活動・生涯学習活動の支援

- 資料・情報を通じた地域市民活動の拡充
 - 生涯をつづいた学び成長する場
- 市民情報コーナー、多目的室 等

⑤ 市民・地域・学校・大学・企業との協働

- 読書のまち・かわさき事業の積極的な推進(学校図書館との連携、読書ボランティア育成の推進など)
- 学校支援・団体貸出室、図書ボランティア活動室 等

③ 誰もが使いやすい図書館

- 子育て支援からシニア活動までの場
 - 親子で楽しめる場
 - 障がい者、外国人など誰でも使いやすく、快適な場
- 読み聞かせコーナー、バリアフリー整備 等

⑥ 効率的で利便性の高い図書館

- 自動書庫・自動貸出機等IT化の推進による効率化・省力化・省スペース化の推進と市民サービスの向上
- 自動書庫、自動貸出機、自動予約棚、無断持出防止装置 等

新中原図書館平面図

③ 総合カウンター

ワンストップで利用案内、読書相談、利用登録等を行うことができる。

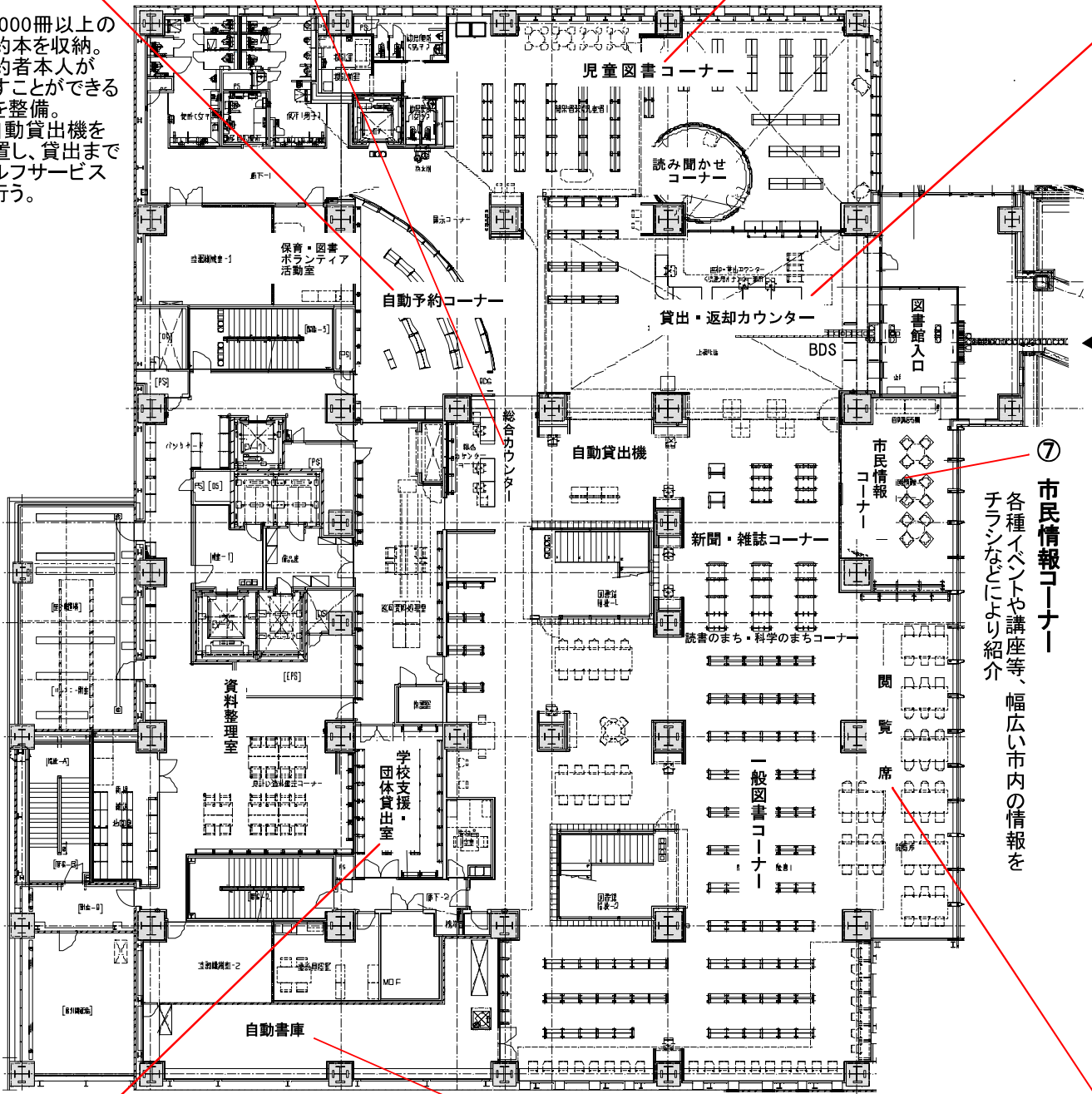


② 児童図書コーナー

子どもに合わせた低い書架に約4万冊の児童図書、絵本等を所蔵。
お話しに集中できる球形の読み聞かせコーナーは約20人の子どもが利用できる。
児童用インターネット端末2台設置

④ 自動予約コーナー

5,000冊以上の予約本を収納。予約者本人が探ることができる棚を整備。
自動貸出機を設置し、貸出までセルフサービスで行う。



⑥ 自動書庫

3階～6階にコンピュータ管理により、20万冊以上の図書資料を管理する自動書庫を整備。利用者への提供時間の短縮や大量一括処理を可能とする。

5 階

⑤ 学校支援・団体貸出室

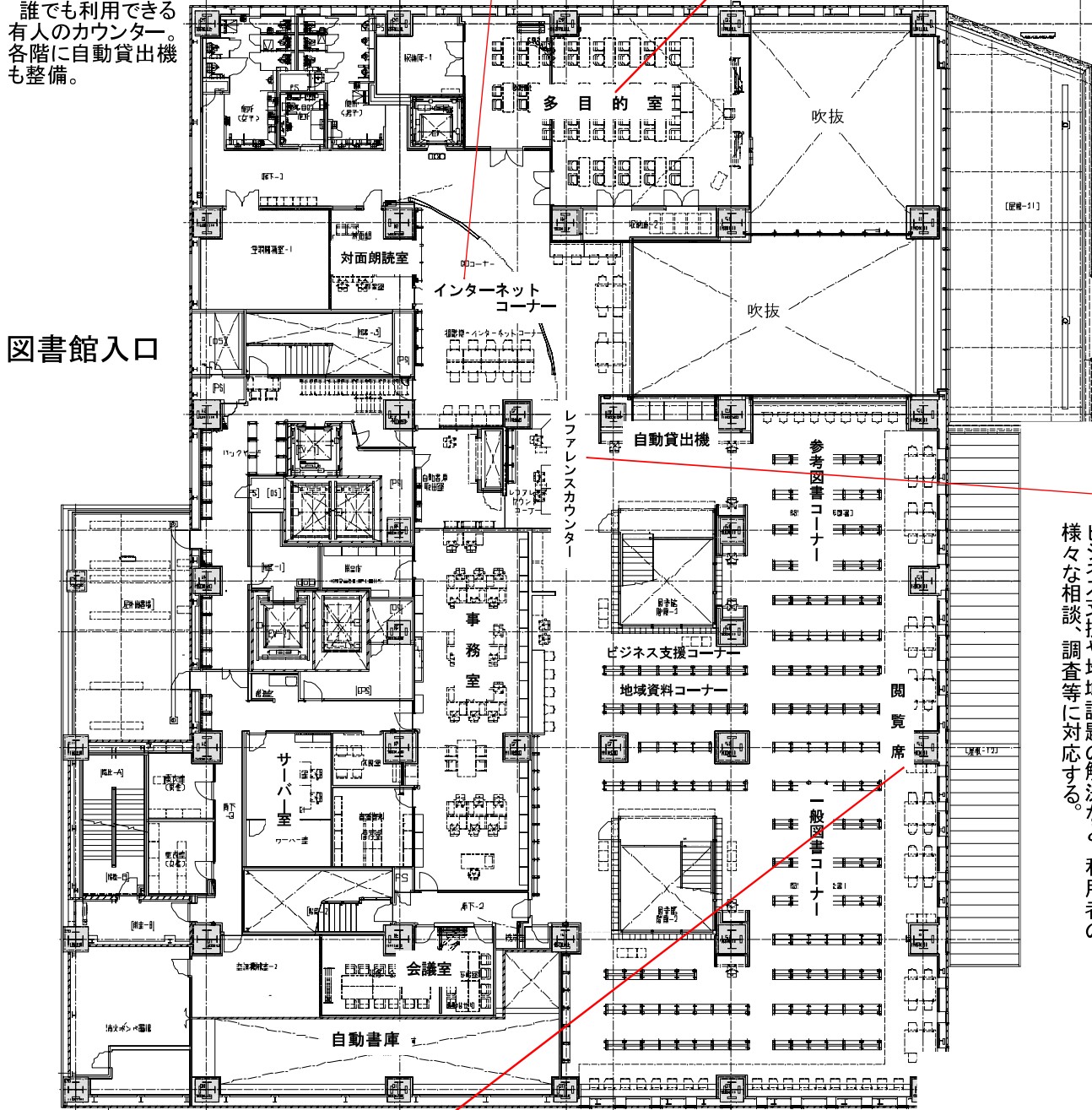
学校や施設、文庫団体等への団体貸出用資料の整理・保管。
学校支援用貸出セットも準備。



① 貸出・返却カウンター

誰でも利用できる有人のカウンター。各階に自動貸出機も整備。

図書館入口



⑩ インターネットコーナー

IT時代に対応し、インターネットが利用できる14台の端末機を設置。

⑨ 多目的室

開館記念イベントなど様々な図書館行事や講座、講演会に利用する。
2部屋に分割して使用することも可能。

⑧ レファレンスカウンター

ビジネス支援や地域課題の解決など、利用者の様々な相談・調査等に対応する。

⑪ 閲覧席

全体で約200席を整備。IT時代に対応し、6階の一部では無線LAN利用を可能とする。



6 階

新中原図書館の運営方針

1. 市民の生涯学習を支える拠点として、多種多様な資料を収集・提供し、様々な課題解決に役立てます

- ・市民の生涯学習を支える拠点として、高度化・多様化する図書資料を計画的に収集するとともに、各種の電子メディアの充実を図ります。
- ・ハイブリッド化を一層進め、館外からも利用できるサービスを充実させていきます。
- ・情報化社会に対応し、多様な市民ニーズに応え、個人レベルから地域レベルまで、様々な課題の解決に役立つ図書館を市民とともに創っていきます。

- ◆利用増や市民ニーズの多様化に対応して資料を計画的に収集・提供
 - ・現行蔵書冊数約33万冊 ⇒ 新館収容可能冊数約45万冊（1.36倍）
 - ・市民の様々な活動に対応する専門書の充実

- ◆電子データベースの拡充や、希少本のデジタル化など、資料のハイブリッド化を推進

- ◆多種多様な資料、職員の専門性向上により、高度なレファレンスに対応

- ◆閲覧席（143席→201席）やインターネット席（2席→16席）を拡充

- ◆6階閲覧席の一部では、無線LANの利用が可能

- ◆団体貸出、ボランティア育成、活動の機会提供による、ボランティア活動、生涯学習活動等の支援の充実

- ◆市民情報コーナーを設置し、地域情報を積極的に発信

3. 特色ある川崎の図書館活動を展開します

- ・「読書のまち・かわさき」の拠点として、市民の豊かな読書環境を醸成し、学校や地域の読書活動の支援を充実させていきます。
- ・「科学のまち」、「音楽のまち」、「映像のまち」など川崎ならではの特色ある資料を充実させます。
- ・市民や地域、市内の教育機関や企業と連携・協働し、市全域を対象とした新たな企画事業を積極的に展開します。

- ◆「読書のまち・かわさき」の拠点として、学校と調整しながら授業で使用する本の貸出などを行い、学校図書館や授業を支援
 - ・学校支援・団体貸出室を整備し支援を強化

- ◆「科学のまち」、「音楽のまち」、「映像のまち」など、川崎ならではの特色を活かした資料展示や講座などの事業を企画・実施
 - ・多目的室を活用した事業の展開

- ◆市内大学との相互利用協定、フロンターレや関連部局との連携事業、地域・企業・市民との協働事業を推進

2. 誰もが使いやすい場やサービスを提供します

- ・乳幼児からシニアまでの幅広い年代、障がいのある方や外国人市民の方々など、誰もが使いやすく快適な場やサービスを提供します。
- ・通勤・通学帰りでも利用できる時間帯まで開館し、高度なビジネスユースに対応するなど、立地環境を最大限に活かしたサービスを新たに展開していきます。

- ◆子どものための読み聞かせコーナーやティーンズコーナーを設置し、児童サービスを充実

- ◆日本語以外の図書や雑誌等も収集し、多文化共生に即した多言語サービスを展開

- ◆大活字本や朗読CDなどを充実させ、障がいのある方だけでなく高齢者にも利用しやすい資料を提供

- ◆ビジネス支援図書コーナーを設置し、仕事帰りにも利用できる時間まで開館時間を延長

【開館時間の延長】

平日9:30～19:00 ⇒ 9:30～21:00まで

新中原図書館は首都圏有数の乗降客の多い武蔵小杉駅前の好立地に整備され、通勤・通学帰りの利用、ビジネスユースのニーズが高まる。

↓
ニーズの高まりに対応するために、ビジネス書・雑誌の充実、電子データベース、インターネット環境などの機能整備と平日の開館時間の延長が必要。

↓
平日の開館時間を2時間延長し新たなニーズに対応する。

4. 市立図書館の業務を統括し、効率的な管理運営を図ります

- ・市立図書館の業務や機能を統括して、持続的で安定した効果的・効率的な運営管理を実現します。また、これらを担うための専門的能力を備えた職員を育成します。
- ・最新のICT機器を活用して利用増に迅速に対応します。

- ◆市立図書館全体の業務や事務上のまとめ機能を強化

- ◆9都県市ほか他都市・諸機関との調整

- ◆学校図書館のシステム管理運営や操作研修など、学校図書館を支援

- ◆「ICタグ」の特性を活かした、施設運営の効率化・省力化・省スペース化を推進
 - ・現在の年間利用者数 約41万人 ⇒ 77万人（1.87倍）
 - ・現在の年間貸出冊数 約107万冊 ⇒ 200万冊（1.87倍）
 - ・現在の予約受付数 約37万件 ⇒ 69万件（1.87倍）

* 自動貸出機や自動書庫、自動予約棚などIT機器導入により、単純作業のうち、貸出処理60%、蔵書点検50%、予約本処理80%の節減を想定